



書  
評

# 前庭リハビリテーション めまい・平衡障害に対するアプローチ

編：浅井友詞・中山明峰

A5・頁190 2015年 定価：3,200円＋税  
[ISBN978-4-89590-521-3] 三輪書店刊

＜書評者＞ 石川和夫（秋田大学大学院 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座）

めまい症例に対するリハビリテーションは、欧米では進んでいる。この問題に携わっている理学療法士（以下、PT）が沢山いて、めまい患者の理学療法に活躍している。既に、彼らは、その面に関する scientist であり professional であるとの認識と誇りを持って活躍している。私に関わって来た国際姿勢歩行学会もリハビリテーションに関わる専門家の参加が大半を占める勢いですらある。

20世紀半ば近くになって前庭リハビリテーションの有用性について Cawthorne と Cooksey が報告した後で、この問題に対する合理性と有用性に関する基礎的根拠をリスザルで示したのが Igarashi であった。奇しくも私が Igarashi 研究室に留学していた頃（1982～1984）盛んに取り組んでいたテーマでもあった。その成果の発表後、急速に臨床応用が進んで現在に至っている。しかし、日本は、この面でやや遅れをとっている。まだ、診療のあらゆる面で医師が関わらなければならないとする瑕疵がその背景にあると思われる。例えば、米国では、PT が BPPV の患者さんに対する理学療法を施行して保険請求できるようになっている。医療を取り巻く環境の違いこそあれ、日本でも、もっと積極的に且つあまねくこの問題を取り扱う医師や PT が増えて医療水準が向上することを慮っていた。そんな矢先に、本書が出版されたことは、まこ

とに喜ばしいことである。こうした問題を取り扱った参考書は本邦では少ない。

本書の編者の浅井友詞氏は、前庭リハビリテーションの本場、米国ロマリダ大学に学び、豊富な臨床経験を持たれて、日本の前庭研究の若きホープの一人の中山明峰氏とともにこの問題に真摯に取り組んでこられ、共編として纏め上げられた。この本は、ハンディではあるが、リハビリテーションを施行するにあたって必要事項が丁寧に順序よく纏められている。つまり、基礎的側面（前庭生理の基本）の説明から入って、前庭系障害の病態と診断および評価を解説した後で機能回復のメカニズムとともに、個々のリハビリテーションの意味とその実際ならびに臨床効果について夫々の項目に亘ってふんだんに図を使ってわかり易く説明している。更に、各章毎に引用文献が適正にあげられていて、原著でも必要に応じて確認できるようになっている。また、頸部障害のリハビリテーションや、転倒予防に関しても簡潔に触れられているのもこの特徴と言えるであろう。

前庭リハビリテーションを現実に行っている、また、これから行おうとしている PT、作業療法士のみならず、日常診療を施行して行く上でこの問題を避けて通れない医師にも一読をお勧めするとともに机上に置いておきたい書籍としてお勧めしたい。

三輪書店

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-17-9 本郷綱ビル

編集 ☎ 03-3816-7796 FAX 03-3816-7756 販売 ☎ 03-6801-8357 FAX 03-6801-8352

ホームページ：<https://www.miwapubl.com>